

収受年月日	議 長	事務局長	書 記
7.2.27			
第 115号			



令和7年2月27日

埴町議会議長 鈴木 孝則 様

総務常任委員会委員長 菊 地 哲 也



所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を下記のとおり実施したので、埴町議会会議規則第77条の規定により報告する。

記

1 調査事件

埴町社会福祉協議会及び子ども第三の居場所「はなまるはうす」の現状について

2 調査の経緯

本委員会は、埴町社会福祉協議会及び子ども第三の居場所「はなまるはうす」の現状について、社会福祉協議会及び担当課からの聞き取り調査を行った。

調 査 日：令和7年1月28日（火）

出席委員：菊地哲也、堀江祐司、藤田一男、吉田克則、青砥與藏、吉村守広、鈴木孝則

説明員：健康福祉課長、学校教育課長、こども支援室主査

参考人：社会福祉協議会事務局長、社会福祉協議会係長

職務出席者：議会事務局長、書記

場 所：社会福祉協議会及び子ども第三の居場所「はなまるはうす」

3 調査の結果

1) 埴町社会福祉協議会の現状について

「あなたが“あなたらしく” いるために」を基本理念とし、主な事業は高齢者が住み慣れた地域において在宅介護サービスをする訪問看護（ホームヘルプサービス）、家族の介護負担を軽減し本人が外出する機会をつくる通所介護（デイサービス）、高齢者を介護、福祉、医療など様々な面から総合的に支える地域包括支援センターなど多くの福祉事業を行っている。同業種の施設が増え利用者の分散があり、職員も不足しており経営は厳しい。埴町も今後更に少子高齢化が進むと思われる。老老介護、高齢者独り暮らしなどの受け皿となる

大変重要な施設であるので、安定した運営を望むものである。

2) 子ども第三の居場所「はなまるはうす」の現状について

前回は施設完成時に行い、今回は運営内容の説明を受けた。週3日開所で利用数は一日平均16.1人。昨年度の10.7人から増えている。夕食利用者も9.5人と昨年度の6.4人から増えている。しかし利用登録者数は34人と同じである。調査は子供達がいらない時間帯を選んで行ったが、施設内は賑わっている情景が想像された。今後の課題はB&G助成金が令和7年度で終了するので、それに変わる新たな財源の確保が必要と考える。

4 委員報告書

別紙のとおり

収受年月日	委員長	事務局長	書記
7.2.10	議員派遣	委員派遣	調査根
第 号			

様式 1

調査研修等報告書

令和 7 年 2 月 8 日

議会議長
委員会委員長 様



提出者 堀江 祐司

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会所管事務調査		
派遣の 日時	令和 7 年 1 月 28 日 (火)	派遣先 (場所)	埴町社会福祉協議会 はなまるはうす
内容	埴町社会福祉協議会 及び 子ども第三の居場所『はなまるはうす』 の現状について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	・ 埴町社会福祉協議会の現状 地域課題・生活課題が複雑化・多様化の中、物価高騰、燃料高騰も大きな影響があると思う。 とても大変な中ではあるが、様々な事業展開をし(ボランティア活動、介護など) これからも更に、心に寄り添った事業をお願いしたいと思いました。 ・ 子ども第三の居場所『はなまるはうす』の現状 私は、とても素晴らしい場所だと思います。 子ども達のがのびのびと生活、これからを生き抜く力を育める場所でもあると思った。 また、現在の運営日数は週 3 日程度、この先、とても大変だが、運営日数が増え、何時どんな時でも利用ができる、事業運営体制ができればもっともっと素晴らしい場所になるのだろうと思いました。		

収受年月日	委員長	事務局長	書記
7.2.10	議員派遣 委員派遣	議員派遣 委員派遣	調査
第 号			

様式 1

研修等報告書

令和 7 年 2 月 9 日

議会議長
委員会委員長

様



提出者 藤田 一男

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会所管事務調査		
派遣の 日時	令和 7 年 1 月 28 日 (火)	派遣先 (場所)	埴町社会福祉協議会 はなまるはうす
内容	埴町社会福祉協議会 及び 子ども第三の居場所『はなまるはうす』 の現状について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	1. 埴町社会福祉協議会 最近、同業種の施設が出来ていて、運営も大変になってきている。でも無くてはならない施設なので大変な事だとは思いますが、計画性を持っていただきたい。ヘルパーも昔に比べると少なくなっており、努力が必要だが施設運営を期待する。 2. 子ども第三の居場所 予算は 960 万円で週 3 日、登録者は 34 人、会計年度任用職員 12 人で運営している。年間利用者のべ 1643 人、夕食利用者 978 人、1 日平均 16,1 人(夕食 9,5 人)である。いろんな方よりの食材の協力もあるようです。現在は BG からの運営費助成金で運営しているが、これが終了後は町の経費となる。今、各地に子ども食堂が出来ている。子育て世代の援助として少しでも役に立てればよい。町には必要な施設と捉えている。		

収受年月日	委員長	事務局長	書記
7.2.10			
第 号			



調査・研修等報告書

氏名	吉田 克則		提出 年月 日	令和7年2月10日
調査 等 名 称	総務常任委員会所管事務調査			
調査 等 の 日時	令和7年1月28日 9:00～	場 所	各施設 現地	
調査 等 の 内容	埴町社会福祉協議会及び子ども第三の居場所「はなまるはうす」の状況について			
意見 感想	☐ 埴町社会福祉協議会 埴町社会福祉協議会は昭和49年4月12日に設立され、誰もが安心して暮らせる町づくりを目指し、地域の方々・ボランティア・教育・社会福祉・保健医療等の関係者及び行政機関との連携を図り地域福祉の推進に取り組んでいる民間組織です。 町からの受託事業、地域福祉活動推進事業・心配ごと相談事業・ボランティアセンター事業・生活支援体制整備事業・地域包括支援センター事業・地域生活支援事業と協議会独自事業を行っている。 介護保険制度や老人福祉関係事業の変革等を見据えた地域福祉を目指していただきたい。 ☐ 子ども第三の居場所「はなまるはうす」 「子ども第三の居場所」運営費助成事業として B&G 財団からの助成金を受けながら現在は運営している。月・水・金の週三日の運営日。月曜日が祝日の場合は週二日となる。休みが多く所期の目的を達成しているのか疑問に思う。 後には、B&G 財団からの運営費が途絶えることとなる。今から、今後の運営を計画的に進めていくことが重要と感じた。			

埴町議会

収受年月日	委員長	事務局長	書記
7・2・10	議員派遣	委員派遣	調査根
第 号			

様式 1

調査研修等報告書

令和 7 年 2 月 9 日

議会議長
委員会委員長 様

提出者 青砥 與藏

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会所管事務調査報告書		
派遣の 日時	令和 7 年 1 月 28 日 (火)	派遣先 (場所)	社会福祉協議会、はなまるはうす
内容	社会福祉協議会及び子ども第三の居場所の現状について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	1, 埴町社会福祉協議会の運営 (主な事業) ① 埴町指定訪問介護事業 (ホームヘルパー) 自宅お訪問して、食事・買物・掃除・入浴・排泄などの介護を行う。 ② 自立支援介護事業 (障害者ホームヘルパー) 自宅にて身の回りの介護、家事の援助、外出の介護など行う。 ③ 埴町指定通所介護事業 (デイサービス) 利用者の社会的孤立感の解消、身体的・精神的な負担の軽減する目的。朝から夕方まで、昼食・入浴・カラオケ・運動など一日を過ごせる。 ④ 埴町指定居宅介護支援事業 (ケアマネージャー) 利用者の家族の希望。利用者の状態に合わせた介護サービスの計画作成。 ⑤ 埴町地域包括支援センター 地域住民の保険・福祉・医療向上・虐待防止・介護予防を総合的に行う。 要介護認定申請の代行やケアプラン作成・受けられるサービスの紹介を行う。 【私見】少子高齢化社会の中で、多くの事業を一手に行っている社協は今後、益々拡大すると考える。事業予算の拡大に対応策を考える必要がある。 2, 第三の居場所「はなまるハウス」の運営 【令和 5 年度】 ① 事業費支出合計 12077000 円 B&G 助成金が 960 万円と町負担で運営 ② 利用者 利用者登録数 34 名 (埴中 3 名、埴小 27 名、笹小 3 名、幼稚部 1 名) 年間利用者数 1236 名、(夕食利用者 731 名) 【令和 6 年度】 ③ 事業費 支出合計 14715000 円 B&G 助成金が 960 万円と町負担で運営 国県補助金：子ども子育て交付金 2936000 円 (概要) ④ 利用者 利用者登録数 34 名 (埴中 2 名、埴小 29 名、笹小 3 名) 年間利用者数 1643 名、(夕食利用者 978 名) 職員数 会計年度任用職員 12 名 (常勤 1 名、非常勤 10 名、運転手兼用務員 1 名) 【私見】他町村ではここまでの事業はありません。効率よく事業展開をお願い致します。		

埴町議会

収受年月日	委員長	事務局長	書記
7.1.30	議員派遣	議員派遣	議員派遣
第 号	議委	議員派遣	議員派遣

様式 1

調査研修等報告書

令和 7 年 1 月 30 日

議会議長
委員会委員長 様

提出者 吉村 守広

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会所管事務調査報告書		
派遣の 日時	令和 7 年 1 月 28 日 (火)	派遣先 (場所)	社会福祉協議会、はなまるはうす
内容	社会福祉協議会及び「はなまるはうす」の現状について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	社会福祉法人「埴町社会福祉協議会」は、町の重要かつ中心的な福祉、介護施設として県や町からの受託事業を行っている。地域福祉活動推進事業や心配ごと相談事業さらに、ボランティアセンター事業等の活動である。またエールはなわなどの生活支援事業も行っている。さらに介護サービス事業では訪問介護事業、通所介護事業、訪問入浴介護事業、地域包括支援センター事業なども行っている。 近年、同業施設の増加により利用者の分散化や職員の人手不足等で施設運営は大変だと思われるが、高齢者や障害者などの利用者が安心して利用できる事業を継続して行って欲しいと思う。 子ども第三の居場所「はなまるはうす」は、令和 5 年度より B&G の助成金 (年額 960 万円) を利用して運営されている。令和 6 年度には国県補助 (2, 936 千円) も加算されて、予算額 14, 715 千円となっている。スタッフは、常勤 1 名、非常勤 10 名、運転手 1 名である。 共働き世帯やひとり親世帯にとって、子どもたちの放課後の過ごし方を支えてくれて、さらに夕食も提供してくれるという大切な施設となっている。また親子で参加するイベントや年齢の異なる子どもたちの交流もあるので、子どもたちの健全な成長には重要な役割を担っていると思う。		

収受年月日	委員長	事務局長	書記
7・2・3	議員	派遣	調査研修等報告書
第 号	委員	派遣	

様式 1

令和 7 年 2 月 2 日

議会議長
委員会委員長

様



提出者 鈴木 孝則

派遣目的 (調査等 名称)	総務常任委員会所管事務調査		
派遣の 日時	令和 7 年 1 月 2 8 日	派遣先 (場所)	埴町社会福祉協議会 及び子ども 第三の居場所はなまるはうす
内容	社会福祉協議会とはなまるはうすの現状について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	社会福祉協議会 広報・公聴活動として年 4 回はなわ社協だより「こころ」を 2 9 0 0 部発行している。また HP、X、Facebook で情報を提供しているが私もフォローしている。事業部門では地域福祉活動推進事業として研修会の開催やニュースポーツセットを含む福祉用具等の貸し出し、百歳賀寿事業などを行なっている。一般募金配分事業（赤い羽根共同募金還元）においては一人暮らし高齢者交流事業、寝たきり高齢者介護世帯訪問、一人親世帯入進学金贈呈、福祉団体助成を行なっている。赤い羽根共同募金であるがバッジや羽根の配布・配付は寄付行為の精神からしても人に誇示するものではないし、またもったいなく止めるべきと思う。全額を事業に充てて欲しい。 社会福祉協議会の会員・会費の募集であるが令和 6 年度の計画では一般会員 2 0 1 9 世帯（一世帯 5 0 0 円）、賛助会員 1 3 0 口（一口 3 千円）計 1 4 0 万弱を目標としている。加入世帯は全世帯の 3 分の 2 程度であり全町民の意識改革も必要であるが社会福祉・互助の観点からも住民税非課税世帯も含めた全戸加入を引き続き推進して欲しい。介護サービス事業ではデイサービスの利用者が減少しているが民間事業者との競合が背景にある。引き続き住民の福祉向上に取り組んでいただきたい。 はなまるはうす 令和 5 年度は開所日数が 1 1 4 日、利用登録者数は 3 4 人。利用者は一日平均 1 0、7 人（夕食 6、4 人）、年間利用者数 1 2 3 6 人、支出額は約 1 2 0 0 万であった。令和 6 年は 1 2 月現在で開所日数 1 0 2 日、登録者数は 3 4 人、一日平均 1 6、1 人、年間利用者数 1 6 4 3 人である。運営助成金打ち切り後の運営が危惧される。		

埴町議会